

意見交換会実施報告書

令和6年 8月19日

赤穂市議会議長 様

建設水道委員会委員長 田淵 和彦

建設水道委員会は、下記により意見交換会を実施したので報告する。

記

開催日時	令和6年 8月 2日 (金) 16時00分 ~17時30分
開催場所	赤穂市役所6階 大会議室
意見交換会テーマ	観光ガイドから見る赤穂市観光の現状と課題について
出席委員	代表者：田淵 和彦 山野 崇 司会者：南條 千鶴子 奥藤 隆裕 記録者：中谷 行夫 瓢 敏雄
相手方団体名 及び参加者数	播州赤穂観光ガイド協会 4名
主な意見等	<p>1 活動の概要</p> <p><赤穂地区ガイド></p> <p>(1) ガイド部門の現状と活動内容</p> <ul style="list-style-type: none">・ガイド登録者は22名（英語通訳1名、手話通訳1名を含む）で男女の構成比は50%、年齢構成はほとんどが60～80代である。・赤穂地区ガイドの対象範囲は、赤穂義士観光コース（赤穂駅前～いきつぎ広場～花岳寺～御成道～赤穂城跡～赤穂大石神社～赤穂歴史博物館がメイン）、田淵記念館（秋の公開）、旧赤穂上水道跡ハイキング（現在休止中）、塩ハイキング（現在休止中）である。・月1回、学習会やお出かけ研修、現場実習などが実施されており、観光案内のほか、「まちあるき」としてガイドと史跡等を巡る一般案内を月2回実施されている。また、歴史講座、高齢者大学などで外部講師をされている。 <p>令和5年度のガイド案内件数は150件程度で、コロナ禍以前は200件程度であった。</p>

(2) 県、市、観光協会、坂越ガイド等との協力状況

①赤穂市の教育委員会や市史編さん室、歴史博物館などの学芸員とガイド間には、一定の対話や協力体制を持っている。

②当該ガイド協会は年1回総会を開催しているが、赤穂市産業振興部観光課長には来賓としてご挨拶をいただいている。

③赤穂市産業振興部観光課とは特に決まった意見交換の場がない。市からの依頼があれば赤穂観光協会が窓口となり、当該ガイド協会が対応する。直近では義士伝行列への参加依頼があった程度である。

④県も同上のとおりで、赤穂観光協会が窓口となる。

⑤坂越地区のガイドは赤穂地区とはガイド対象範囲が異なるだけでなく、「坂越のまち並みを創る会」の活動とも絡んでおり、赤穂地区の取組みとは異なっている。

赤穂地区と坂越地区は統一した組織の下にあるが、それぞれ独立して活動している。

<坂越地区ガイド>

ガイド部門の現状と活動内容

・令和5年度のガイド件数は32件654名で令和3年度38件に比べると約15%減少した。

令和6年度の訪問客は令和5年度7月まで(4か月合計)7,112名に比べて8,035名で、13%増加している。年間24,000名を想定している。

・ガイド登録者は11名(英語通訳3名)で、従来から活動してきた4名が高齢化していることもあり、急遽ガイド養成講座を行い、7名の新人ガイドを養成した。

・ガイド学習会を令和5年より第3日曜日に開き、ガイド仲間のレベルアップと親睦を深めている。

2 意見・要望他

<赤穂地区ガイド>

・観光ガイドが感じる観光にあたっての問題点や課題等

①コロナ禍の影響が十分に回復していないこともあり、観光客が減少傾向である。

②赤穂に観光に来られる方は高齢者の方が多く、若年者は忠臣蔵の映画やテレビなど知らない世代であり、今後ますます観光客がじり貧傾向になるのではと心配する。

- ③テレビや映画で「忠臣蔵」が人気を誇っていた時代は過ぎたと感じ、観光客への説明では「忠臣蔵を知らない世代」に向けたわかりやすい観光案内が求められている。
- ④赤穂駅を降りて駅から見渡しても、市をあげて「忠臣蔵のまち」というアピールがあまり感じられない。
- ⑤花岳寺は入り込んだ街中にあり、場所がわかりにくい。特に車で来られた方は駐車場などがわからず迷うことが多く見られる。案内表示が必要ではないかと思う。
- ⑥赤穂城の一本北側の道、緑色の道路案内板の文字表示は薄く、車の運転手には見えにくい。
- ⑦赤穂城跡内は民家が立ち退いた後は塀で区画しているものの、広大な空き地となり、草が伸びており印象が良くない。
- ⑧赤穂城跡内は車の乗り入れが可能だが、道路が狭くなっているところをゆっくり歩く高齢者の観光客にとっては危険である。
- ⑨歴史博物館の駐車場は入り口の道路が狭く、大型観光バスは入れない。
- ⑩大型観光バスの指定された駐車場所は西駐車場であり、赤穂城跡を観光するコースとしては塩屋門から入ることになり、好ましいコースではないと思う。
- ⑪赤穂城内の一部は自転車の乗り入れやペットの散歩禁止区域となっており、その旨を地図上に表示して本丸門前、厩口門前、花見広場米蔵北、武家屋敷公園東屋西に立て看板で示している。
- しかし、そのうち武家屋敷公園東屋西の看板は劣化により内容がわからない。また他の3か所の看板は地図上にその旨の表示は区分されているが、初めて訪れる観光客にとってはその場所がなかなか理解しにくいと思う。地元の方でもわかりにくい。
- ⑫年末年始には赤穂城本丸は閉鎖されている。
- ⑬近藤源八長屋は土日祝日のみしか開いていない。年末年始は赤穂城と同様に閉まっている。
- ⑭1969年に「赤穂大石神社」となっている。一部案内表示には「大石神社」が残っている。
- ⑮これまでボランティアで取り組んできたが、高齢化等により、将来的には活動が減少していくと思われる。ボランティアに頼りすぎている事業全般は今後立ち行かなくなるのではないか。
- ⑯主な観光スポットの一つである花岳寺は周辺の店舗が閉店しているところが多く、観光客が立ち寄れる場所が少ない。

⑰観光の目玉となる食べ物が、赤穂市にはないと感じる。塩を使った食べ物等、観光客に紹介できるものがあればよい。

⑱一つの企画、例えば2016年にあった旧赤穂上水道400年記念事業の時など、市では、様々な部署がそれぞれ同じような事業を行った印象を受けた。行政として統一的に企画を行うことはできないか。

・観光ガイドが観光客から聞いた意見等

①赤穂市内の道路脇雑草の管理が行き届いておらず、伸びているところも多く見られる。

②電柱や道路脇の道案内表示には、古くさび付いて「塩業資料館」などの表示もある。現在、塩業資料館はない。

③播州赤穂駅を降りて観光しようと思っても、観光案内板が見当たらず、どこからどのように行くのか迷ってしまう。目立つように設置し、観光客への配慮を期待する。

④市として観光客にどこを見て欲しいのか、また赤穂史跡の特徴などよくわからない。

⑤案内板が不足。個別のところはわかっても、全体感での説明がない。

⑥トイレの掃除は定期的に行われているようだが、設備が古いので清潔感を感じない。

⑦赤穂大石神社駐車場のトイレの水道は、赤穂市による修理依頼中の張り紙が長期間貼ってあり、修理完了まで一年半程度を要していた。

⑧赤穂城跡の塩屋門から入ってくる車が多くあり、歩行中に危険を感じた。

⑨赤穂城跡内の電柱は雰囲気壊している。地中化することを計画しないのか。

⑩大型観光バスは西駐車場利用となるが、見学したいところから離れているので不便を感じる。

⑪義士あんどん（からくり時計）は、見るたびに故障している。たびたびの故障はいかななものか。

⑫駅前から赤穂城跡の間に食事処は数軒あるが、カフェがなく困っている。

⑬観光客が昼食を食べたり、休憩できる場所が少ない。また「休憩所」の表示がないので、使ってよいのかわかりにくい。

⑭自転車の乗り入れ及びペットの散歩禁止区域に気づかずに入

ってしまい、関係者から注意を受けた。禁止区域の地図上の位置を理解できていなかった。

・観光ガイドが改善を期待する観光対策等

①市内道路脇雑草の定期的な清掃。

②道路案内表示等を見やすくし、表示内容を正しく整備。

③赤穂城内の自転車乗り入れ及びペットの散歩禁止区域を初めて訪れる観光客の方でもわかりやすい内容で地図に表示し、当禁止区域入り口には「ここから立入禁止」など、間違わないように注意喚起を掲示して欲しい。

④塩屋門から赤穂城内の車の乗り入れが危険な場所もあり、乗り入れ禁止、または一方通行設定、特に大石良雄宅跡長屋門あたりのUターン禁止区域設定など安全対策の検討。

⑤花岳寺の場所案内など、行先表示をわかりやすく設置。

⑥赤穂城内にある塀で囲った屋敷跡の有効活用も含めての管理を徹底。

⑦NHKの大河ドラマ誘致に頼るだけでなく、積極的に自ら赤穂の歴史や文化を発信するよう努め、観光リピーターの増加対策。

⑧年末年始には赤穂城本丸は閉鎖されているが、この期間は初詣客をはじめ、長期休暇利用の旅行客が結構訪れる。年末年始に解放することの検討。

⑨近藤源八長屋が開いているのは土日祝日のみだが、観光シーズンである秋と春は毎日開けることの検討。また赤穂城と同様に年末年始に開けることの検討。

⑩義士あんどん（からくり時計）の故障しにくい設備対策。できないならば迅速な修理対応。

⑪観光コース上の分かりやすい観光全体説明板の効果的な配置。播州赤穂駅ロータリー付近、大手門入口付近、歴史博物館駐車場、西駐車場など。

⑫大型観光バスの駐車場を大手門付近に整備。

⑬赤穂城跡内にあるトイレをシャワートイレへの改造及び清潔感向上。

⑭赤穂大石神社の主催する春の義士祭やお田植祭など昔に比べて取組みが増え、頑張っている感がある。ぜひとも赤穂義士祭には市をあげて盛り上がりを期待している。

⑮観光コースに設置されている休憩場所には、「休憩所」の表示

が欲しい。

⑯御崎地区に観光客を集めようとする、やはり駐車場の少なさが一番の問題である。

・その他

①相生市には大石内蔵助にちなんだ「大石町」という地名があり、相生の方々はその誇りに思っている。赤穂には浅野、大石、森などの偉人の名が地名等に残らず寂しい。

②赤穂観光大使の方々はその魅力を発信していただいていると伺っている。その内容や効果など、どのような状況なのか。ご存知の範囲で教えていただければ幸いである。

<坂越地区ガイド>

・坂越の現状

①おくとう市のようなイベントがある場合、駐車場待ちの車渋滞で、町並み沿道の住民からは自宅に車で入れないという苦情も寄せられ沿道の、オーバーツーリズム現象がある。海外からの観光客に外国人向けの観光マップを求められた。

②他府県を含め裏山の茶臼山や坂越浦城跡に登る人が増加している。

・今後についての課題と対策

①国内向け観光ガイドの充実を目指し、新メンバーの自立化とユニフォームの作成をしたいが資金調達に苦慮している。

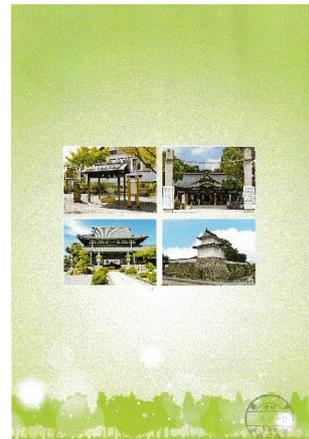
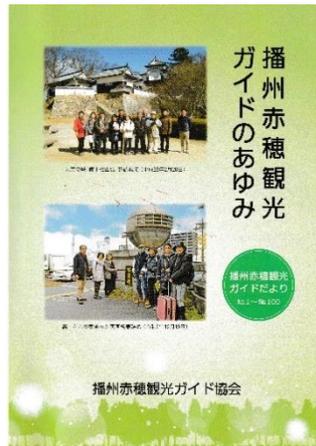
②インバウンド対策として、英語ガイドができるメンバーが3名となったが、姫路までは多く来ているが赤穂への訪問が少ない。原因は色々あるが海外への情報発信ができていないこと及び受け入れ窓口で外国語対応の仕組みがないこと。多国籍語窓口ができれば英語版ガイドは可能な状態である。マップも現行の日本語版を英語ガイド用に翻訳は可能な体制にある。これらの課題については検討いただきたい。

③山城ガイドの養成については、山城整備は充実してきたが、ガイドメンバーの養成が必要である。

・その他

①駐車場の整備として、坂越トンネル出口の駐車場は看板を置いただけとなっており、区画ラインの整備、駐車場から町並み

	<p>への案内板が必要である。</p> <p>②裏山散策道の整備として、裏山散策道（谷道）の通行止め、縮遠居前の崩れた石垣整備が未着工となっている。</p> <p>③赤穂市観光行政についての具体的施策が見えてこない。解決に向けた課題の抽出が必要である。</p> <p>④団体観光客に対応したトイレがない。</p> <p>⑤あこう魅力発信基地において、坂越と御崎の海の関係から観光の目玉にしようとする話があったが、その具体的な策が見えてこない。</p> <p>⑥放っておいても自然と観光客に来ていただける環境づくりをしたい。</p>
<p>委員会のコメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観光ガイドの運営費用については、備品購入費や研修費などの自己負担が大きくなっている。市の助成金について見直しが必要ではないか。 ・観光ガイドはもとより、様々な分野で市政運営をボランティアに頼っているが、人口減少と高齢化による人材不足により、無償ボランティアの人材確保が難しくなっているのではないか。 ・年間を通じて四季折々に観光できる魅力づくりや観光を楽しむ場所の発信と企画作りは必要である。 ・赤穂市の観光を楽しむ場所、企画などが必要である。 ・赤穂市の中心地、駅前通りを活性化するには花岳寺の観光を踏まえ、花岳寺通商店街の活性化が必要である。 ・赤穂地区ガイドを利用する観光客は、赤穂義士観光コース、花岳寺方面を希望される方が多いが、花岳寺がどこにあるか分かりにくい、また播州赤穂駅を降りて駅から見渡しても、市をあげて「忠臣蔵のまち」というアピールがあまり感じられないと言われた。観光案内板（誘導方法）を含め赤穂市として工夫が必要ではないか。 ・赤穂市内の観光地の共通課題として、駐車場の確保、トイレの衛生面を整備する必要がある。 ・駅前通りからお城通りにかけて、観光途中で休憩ができるカフェが必要である。また休憩場所の設置を検討する必要があるのではないか。 ・四季折々に観光できる魅力づくりの企画として、駅前通りから坂越地区や御崎地区を結ぶ観光ルートを創り出す必要があるのではないか。



播州赤穂観光ガイドだより100号記念誌
「播州赤穂観光ガイドの歩み」